

病院と地域で生み出すソーシャルイノベーションの条件とは —星総合病院・食 Full クリエイト課のケーススタディー—

佐藤 桃佳

生活習慣病が死因の大多数を占めるようになり久しい。食事や運動、睡眠などの日常の些細な習慣に起因するこの疾患では、一次予防として生活習慣の見直しが重要視されている。

しかしながら、生活習慣を改めることや、それまでの自己の習慣をひとりで突然に改めることは容易ではなく、そこに医療者が伴走する必要がある。そこで私が今後の医療・福祉に従事するうえで積極的に取り組んでいかなければならないと考えるのが、医療者と市民がつながることである。

両者の関係から「見えざる資産」としてのソーシャルキャピタルが生まれ、参加者同士の働きかけからソーシャルイノベーションが創出されれば、生活習慣病の問題や、食育、誰もが健康でいられるまちづくりが実現するものと考えられる。

本研究では、星総合病院食 Full クリエイト課の戸松明子氏への聞き取り調査、同氏の手掛ける事業先の見学を通し、それぞれの機能や仕組みを確認していく。また、宮崎県立日南病院や愛泉会日南病院を訪問し、それぞれの現場でどのような取り組みが実施されているのかについて観察する。それぞれ、聞き取りや訪問調査で明らかになったことを、裏付けする文献も交えながら記した。

聞き取り調査と文献から、「見えざる資産」の創出に必要な要素とは何かを考察し、「ソーシャルキャピタル」の創出と「ソーシャルイノベーション」の発生に求められる要件について以下の3つの項目にまとめ、提言を行った。

- (1)医療人と地域住民をつなぐアクターの必要性
- (2)参加者それぞれが「My テーマ」をもつこと
- (3)自らを再定義し続ける思考・行動パターンの必要性

本研究が、医療者と市民が会うきっかけづくりにつながり、一人ひとりが望む暮らしを実現する手助けができるとしたら、それは本望である。